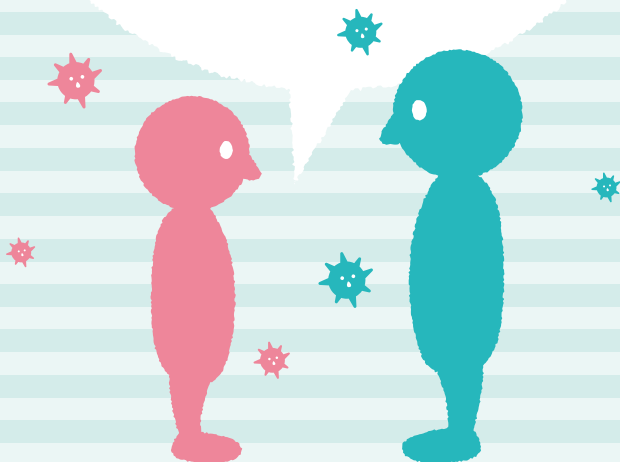


がんを防ぐための
新 12か条シリーズ 5

感染とがん

～感染とがんのかかわりについて知る5分間～

がんはうつるのでしょうか？
感染がもたらすがんへのリスクについて
正しく知って欲しい事実があります。



編著：笹月 静 国立がん研究センター
社会と健康研究センター



公益財団法人 **がん研究振興財団**
Foundation for Promotion of Cancer Research

みなさんは感染症というと 何を思い浮かべますか？

はじめに…

最も身近なのは誰でも1年に1度は引く風邪や、発熱を伴うインフルエンザ、ワクチン接種の対象となっているような風疹や麻疹、また、エイズなどは全身性のものですし、眼や消化器など、一部の臓器に起こる感染症もあります。衛生状態や栄養状態の改善にもかかわらず、感染症はわたしたちにとって依然として身近な病気です。感染で思い起こすイメージには発熱やせきなどの症状や、ある種のものうつるということもあるかもしれません。

がんの中にはウイルスや細菌などの感染が関わるものがいくつかあります。実は日本人のがんの原因として女性では1位、男性ではたばこに次いで2位を占めているのが感染であるとの試算結果も報告されています。感染とがんとの関係について正しく知り、がんはある程度防ぐことができる病気であることを知りましょう。

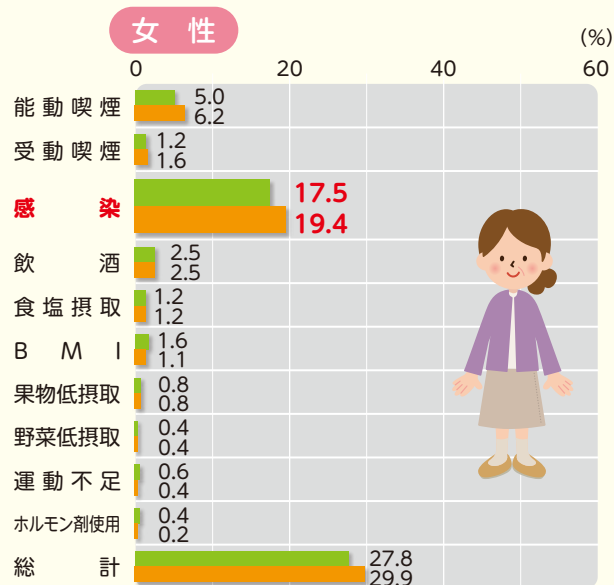
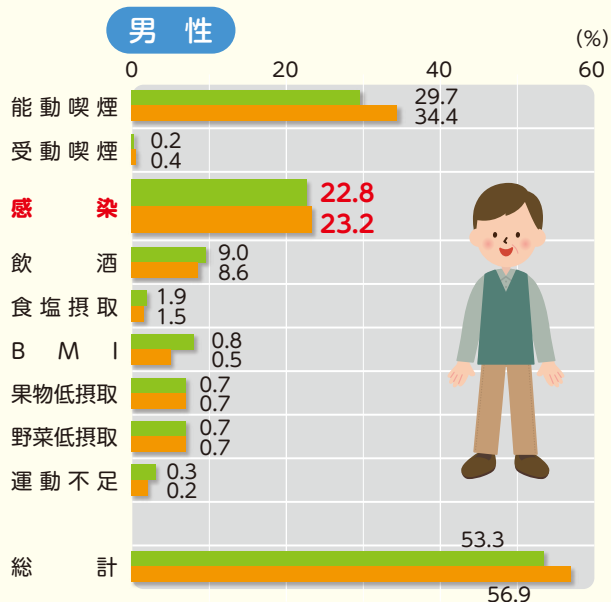
日本人におけるがんの原因としての感染



(図1)は日本人のがんの中で生活習慣などの、自分で変えられるものが原因を占める割合を試算したものです。

(図1) 日本人におけるがんの要因

■罹患 ■死亡



(引用: Inoue M et al. Ann Oncol. 2012)

全体では男性の53.3%、女性の27.8%つまり、男性のがんの約半数、女性のがんの約3分の1はここに挙げてある**生活習慣が原因**であったと考えられます。

感染は女性では1位、男性ではたばこに次いで2位を占めていて、とても重要な原因であることが分かります。ではいったいどのようなウイルスや細菌により、どんながんにかかるのでしょうか。

肝炎ウイルスと肝がん

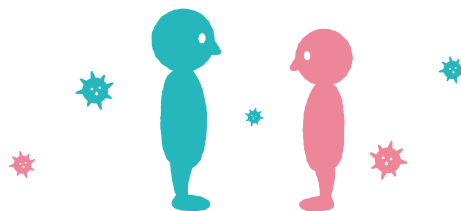
Hepatitis virus and Liver cancer



肝炎ウイルスと肝がんの発生との間には深い関係があります。肝炎ウイルスにはB型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスの2種類ありますが、これらのウイルス感染陰性の人と比べて**それぞれのウイルスの単独陽性者では肝がんのリスクがそれぞれ36倍および16倍**と報告されています(引用文献: Ishiguro et al. Cancer Lett 2011)。また、肝がんの患者さんの8割はいずれかのウイルスの感染者であるとの報告もありますので、これらのウイルスに感染していない人からの肝がん発生はまれといえるでしょう。B型・C型肝炎ウイルスは主に血液、また、B型肝炎ウイルスは性的接触を介しても感染します。出産時の母子感染については対策がとられるようになり、防ぐことができるようになりましたが、近年では若年者の新たな感染者が増加しており、注射の回し打ちや入れ墨(タトゥー)やピアス等の針の使いまわしによるものと推測されています。このような行為は将来のがんの発生をも高めてしまうということを忘れてはなりません。

ヒトパピローマウイルスと子宮けいがん

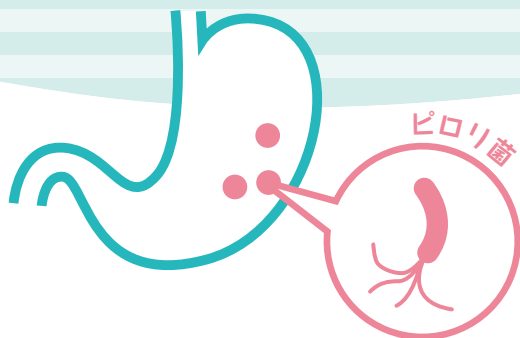
Human papillomavirus and Cervical cancer



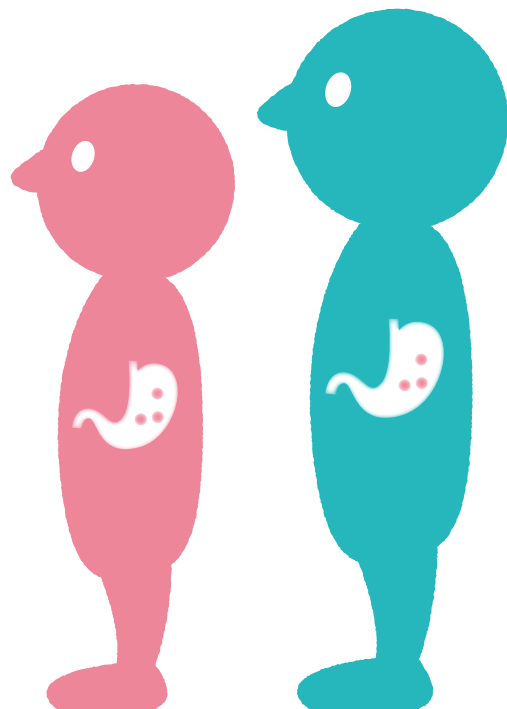
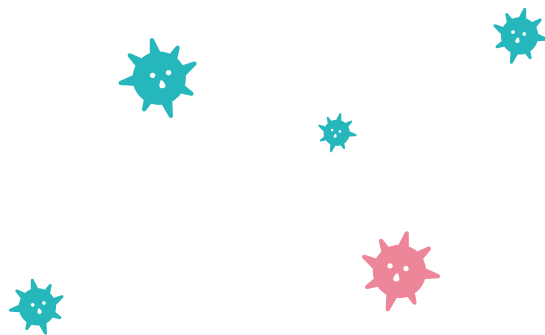
子宮けいがんの原因となるのは**ヒトパピローマウイルス(HPV)**で、性交渉により感染することが知られています。性交経験のある女性のほとんどが一生涯に一度はHPVに感染することが分かっています。感染しても多くの場合、HPVは自然に消えるといわれていますが、その一方でくり返し感染をおこします。感染が長期にわたり持続した場合に、その後、子宮けいがんに進展する可能性があります。たばこは、感染からがんへ進展する過程に関連するといわれています。現在、HPV16と18型2種類に対するワクチン、さらに6と11型も含む4種類に対するワクチンが、国内で接種可能となっています。日本でもワクチンについての研究は行われており、ワクチンの効果、副作用、臨床症状などに関しても海外の大規模な研究の結果を支持することが示されています。ただし、副反応の発生頻度等がより明らかになり、国民に適切な情報提供ができるまでの間、定期接種を積極的にすすめることは差し控えられています(2015年8月時点)。

ヘリコバクターピロリと胃がん

Helicobacter pylori and Stomach cancer



国際的な研究機関でもヘリコバクターピロリという細菌(以下、ピロリ菌)は胃がん発生の原因として位置づけられています。陰性者**に比べて陽性者の胃がん発生のリスクは5倍であるとの報告**があります。ただし、日本の高齢者の陽性率は高く、その中から胃がんになるのは一部です。つまり、ピロリ菌感染単独では胃がんの発生を説明できないのです。したがって、感染の有無にかかわらず、喫煙はしない、塩からい食べ物をとりすぎないようにする、野菜・果物不足にならないようにするなど、胃がんに関わるとされる生活習慣にも注意が必要です。ピロリ菌の除菌(抗生剤の服用でピロリ菌を除去すること)については、除菌療法による胃がん予防効果を示すような研究結果が蓄積されてきています。複数の研究を合わせたメタ解析では予防的な効果が報告されていますが、無症状者での効果など、確定的ではありません。副作用など、負の側面に対する検討も不十分です。



このパンフレットを手にしてくれた あなたに伝えたいことがあります。



わたしたち日本人にとって感染はがんの原因として主トについては注意をすることが大切です。必要な時期
ことができます。肝炎ウイルス感染の治療法の進歩は
ない経口薬などによる治療も可能となってきました。
は、ワクチンや検診などの対策の動きをみて、必要な

要なものの中のの一つです。すでに知られている感染ルー
に自分の感染検査をすることにより必要な対策をとる
目覚ましく、インターフェロンだけでなく、副作用の少
一方、ヒトパピローマウイルスやピロリ菌などについて
対策をとることが望まれます。

「がん」に関する情報はこちらから…

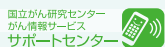
聞きたい **がん相談支援センター**



全国の国指定の**がん診療連携拠点病院**などにある相談窓口
でがんに関する治療や療養生活全般、地域の医療機関などについて、対面や電話で相談することができます。
どなたでもご利用できます。

※病院、または、**がん相談支援センター**をお探しの場合は、こちらから
<http://hospdb.ganjoho.jp/kyoten/>

※電話でもご案内いたします。
【がん情報サービスサポートセンター】電話：0570-02-3410（ナビダイヤル）
平日（土日・祝日を除く）10時～15時
※通話料は発信者のご負担です。また、一部のIP電話からはご利用いただけません。



知りたい **がん情報サービス** <http://ganjoho.jp/>

『国立がん研究センターがん情報サービス **ganjoho.jp**』は

国立がん研究センターがん対策情報センターのウェブサイトです。
がんについて、がんとの向き合い方、診断・治療方法、緩和ケア
について、病院検索など、さまざまな情報を調べることができる“がん情報の入り口”です。

がん情報 検索 





がんを防ぐための 新12か条

あなたのライフスタイルをチェック
そして今日からチェンジ!!

- 1条 たばこは吸わない
- 2条 他人のたばこの煙をできるだけ避ける
- 3条 お酒はほどほどに
- 4条 バランスのとれた食生活を
- 5条 塩辛い食品は控えめに
- 6条 野菜や果物は不足にならないように
- 7条 適度に運動
- 8条 適切な体重維持
- 9条 ウイルスや細菌の感染予防と治療
- 10条 定期的ながん検診を
- 11条 身体の異常に気がついたら、すぐに受診を
- 12条 正しいがん情報でがんを知ることから

発行 公益財団法人 がん研究振興財団

〒104-0045 東京都中央区築地5丁目1-1 国際研究交流会館内
TEL.03-3543-0332 ホームページ <http://www.fpcr.or.jp/>